

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年12月19日(2013.12.19)

【公表番号】特表2013-508107(P2013-508107A)

【公表日】平成25年3月7日(2013.3.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-012

【出願番号】特願2012-535780(P2012-535780)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/28 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/28 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成25年10月28日(2013.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

回転ボディ(60)に取り付けられる顎開閉手段(70)と、該顎開閉手段(70)を動かすように運動伝達する第1手段(100)と、前記回転ボディ(60)を動かすように運動伝達する第2手段(200)とを備える最小侵襲腹腔鏡手術用プライヤー(10)であって、前記第1および第2伝達手段(100, 200)がそれぞれ、各 tendon が幾つかのケーブル(500)により形成される構成の少なくとも1本の tendon(300, 350, 400)を備えており、前記ケーブル(500)は、前記第1運動伝達手段(100)に接続される少なくとも1本の tendon(300, 350)の断面が、メインボディ(20)の内部を通る tendon の通路に沿って、可変形状(A, B, C)を有するように配置されており、

前記プライヤー(10)が更に、 tendon(300, 350)のケーブル(500)の方向を変更するモジュール群(600)を備え、各モジュール(600)は、対応する tendon のケーブル(500)を誘導して前記 tendon の方向に回転を生じさせるように形成された延伸通路(650)を有し、

各 tendon(300, 350)の前記断面形状が、各ケーブル(500)の長手軸が断面で見たときに放射状配置(A)に配置される第1配置(A)と、各 tendon(300, 350)の各ケーブル(500)の長手軸が断面で見たときに第1方向に分布するように配置される第2配置(B)と、各 tendon(300, 350)の各ケーブル(500)の長手軸が断面で見たときに前記第1方向とは異なる第2方向に揃うように配置される第3配置(C)とを有している、最小侵襲腹腔鏡手術用プライヤー(10)。

【請求項 2】

第2および第3配置(B, C)の前記第1および第2方向が、それぞれ互いに対して略90度の角度をなしている、請求項1に記載のプライヤー(10)。

【請求項 3】

前記 tendon(300, 350, 400)のうちの少なくとも1本の tendon が、少なくとも3本のケーブル(500)により形成されている、請求項2に記載のプライヤー(10)。

【請求項 4】

前記顎開閉手段(70)が、第1軸(X)の周りを回転することができる、請求項3に

記載のプレイヤー（１０）。

【請求項５】

前記回転ボディ（６０）が、第２軸（Ｙ）の周りを回転することができる、請求項４に記載のプレイヤー（１０）。

【請求項６】

前記第１軸（Ｘ）および前記第２軸（Ｙ）が、互いに対して略９０度の角度をなしている、請求項５に記載のプレイヤー（１０）。

【請求項７】

前記回転ボディ（６０）が、前記顎開閉手段（７０）にそれぞれ接続される回転ドラム（８１，８２）を含んでいる、請求項６に記載のプレイヤー（１０）。

【請求項８】

前記回転ドラム（８１，８２）のそれぞれが、前記第１伝達手段（１００）の各１つのテンドン（３００，３５０）によって個別に操作される、請求項７に記載のプレイヤー（１０）。

【請求項９】

更に、テンドン（３００，３５０，４５０）を被覆する少なくとも１つのシースを備える、請求項８に記載のプレイヤー（１０）。